

公益社団法人埼玉県理学療法士会
令和6年度第2回理事会議事録

1. 開催日時：令和6年7月16日（火）19：00～20：40

2. 会 場：インターネット会議

3. 理事現在数及び定足数

理事現在数 20名 定足数 11名

4. 出席理事数 19名

出席理事： 南本浩之、岡持利亘、水田宗達、田口孝行、原田慎一、渡邊雅恵、
渡邊賢治、兵頭甲子太郎、赤坂清和、三宮将一、阿久澤直樹、櫻場勝、高野大智
米澤隆介、平野輝利人、菊地裕美、木村佳晶、杉本諭、馬崎昇司

欠席理事： 横山浩康

5. 監事現在数及び出席監事氏名

監事現在数 2名

出席監事：清宮清美、矢野秀典

欠席監事：なし

6. 出席部長・エリア長・委員長

塚田陽一

7. 出席部員

野口雄平（書記）

8. 議長の氏名

南本浩之

9. 議 題

<計画内審議>

なし

<計画外審議>

【事務局】事務室長雇用について

<報告事項>

【事務局】LINEWORKS審議について

【広報局】県士会ホームページのTOPページについて

<その他事項>

理学療法フェスタについて

診療報酬改定における処遇改善について

県自民党に対する要望事項について

総会で会員から頂いた意見について

10. 理事会の議事の経過の要領及びその結果

(1) 定足数の確認等

冒頭、本理事会はインターネット会議のため出席者の通信状況を確認し、問題なく進行できることを確認した。また、議長が定足数の充足を確認し、本会議の成立を宣言した。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

<計画外審議事項>

【事務局】事務室長雇用について

議長の求めに応じ、水田事務局長から資料に基づき事務室長雇用についての説明があった。

南本：1 件事務室長の雇用についての問い合わせが県士会の会員からありました。その方は、嘱託で臨床にいる方で今後枠があれば考えていきたいということだった。

審議の結果、出席理事全員一致で承認された。

<報告事項>

【事務局】LINEWORKS 審議について

資料に基づき報告があった。

【広報局】県士会ホームページのTOP ページについて

議長の求めに応じ、原田副会長から資料に基づき県士会ホームページの TOP ページについての報告があった。

南本：HP 関連に関しては皆様の要望を聞きながら作成をしてもらった。随時要望があれば改善していきたいとの事。

<その他事項>

●理学療法フェスタについて

議長の求めに応じ、三宮広報局長から資料に基づき理学療法フェスタについての説明があった

原田：HP に記載しているのでご確認下さい。チラシを各施設に送っている。外来や利用者様の目につくところに記載をお願いしている。モラージュ菖蒲さんをお願いするにあたり色々と審査を受けました。モラージュ菖蒲の親会社からモラージュ菖蒲の担当者に連絡があり、今後も理学療法士会とコラボレーションしたいとの話があった。他のイベントでもフロアの貸し出しを行ってくれそう。モラージュ菖蒲の施設を借りたい方がいればお声掛けを。

南本：県士会の印象が良いという評価だと思う。今後もタイアップしてくれそうなので、ブロックや部局の活動で会場の候補地にしてもらえればと思う。

●診療報酬改定における処遇改善について

議長の説明に応じ、岡持副会長から以下のように説明があった。

岡持：先日協会の代議員と連盟の役員、埼玉士会の役員と合同の会議で報告したとおり処遇改善について今年度と来年度と継続的に行っていく事が方針に記載された。協会も引き続き進めていく事になったので共有させて頂く。6月分の診療報酬・介護報酬の算定を行ってみて、どのような結果だったのかについては、いくつかお伺いしているが、7月22日の代表者会議で共有できればと思う。今回の動きとしてはロビー活動が大きいと考えられ、その点については、田中まさし議員、牧原秀樹議員に対してリハ専門職に対してのバックアップをして頂いたと思う。埼玉県内では2回のイベントにつなげていきたいと考えている。処遇改善については7000円～1万数千円の幅で4月からの施設や7月からという施設、もしくは検討されている所という様々な意見があった。問題は来年も同じ比率であげていく事と財源確保されて来年に続けていく事が重要だと思う。これらの後押しに対して声を返す必要があると思う。直近で恐縮だが今週の金曜日にソニックシティで19時～20時半に牧原議員と小川先生を招いての会を連盟で企画している。業務推進部・職能局と会をあげて広報に協力していきたいと考えている。時間があれば参加もお願いしたい。また、詳細は決まっていないが、9月3日に田中まさし議員を招いての企画も検討している。こちらは理学療法士会の業務推進部で企画・実行をする。同じ日に田中まさし議員後援会埼玉支部の代表南本さん、副代表が阿久澤さんに協力をいただきながら業務推進部中心で開催していきたい。7月22日のオンラインで開催される代表者会議の時に協会ですとまとめた総括と処遇改善の整理したものをベースに代表者の方には自分の施設等でも行うんだと、それからのちに来る調査に回答しないといけない事については共有したいと思っている。理事でご参加いただける方に関してもその場での発言等もお願いしたい。

南本：学校関係者に関しては処遇改善の対象ではない事は気になると事ですが、まずは病院等の医療機関で働いている方達の処遇改善が田中まさし議員に頑張って頂いた結果だと思う。これを2年間で終えてほしくないという思いがあるので、皆様にもお手伝いを頂きたいと思っている。政治活動に関しては県士会としても大切にしていきたいと思っている。田中まさし議員がいなくなった場合はリハビリテーションが明記されなくなってしまうと危惧している。代表者会議に参加をして頂いて処遇改善や運動器などの話し合いができればと思う。

●県自民党に対する要望事項について

議長の求めに応じ、岡持副会長から資料を用いて県自民党に対する要望についての説明があった。

岡持：県予算について2つ要望しようと考えている。1つは認定とスクールトレーナー制度を利用した理学療法士の運動器検診の関わり方です。今年度3人のスクールトレーナーの育成がされると思う。それを受けて埼玉県の実業に展開をしていくのかを考えている。第1弾として県内で関われる人の育成を支援したい。学校が多いため今後は人数を順次増やしていきたいと要望を考えている。

もう1つは企業で働いている人の腰痛や転倒、メンタルヘルス等の理由で働けなくなる方と減らしていく取り組みである。介護予防で高齢者の虚弱を防ぐ意味合いと違っていて就労世代の方々に対しての取り組みになります。モデル的な取り組みや展開についての後押しをして頂く事で労働災害防止になる、というこれらの2点に絞っていく提案をしたい。

南本：県民にとって重要な事、子供のフレイル問題や子育て問題等が埼玉県でも多く挙がっている。介護職離職の所に対しては専門的な知識や技術を活用して頂きたいという要望をお話しできればと思う。作成して頂いたものを県の自民党へ提出させて頂いて、秋前に聴取があると思うのでお話しできればと思う。予算がつかなくてもこの事業については追及をしていかななくてはいけない部分だと思っているのでご協力をお願いしたい。

阿久澤：学校保健の件ですが、大隈委員長から情報を頂いて、学校保健と特別委員会の協会の学会連合で学校保健の委員会に入会していた方達で今後県士会の活動に協力してくれるとチェックをつけてくれた方になる。そのため、今年3名の方のリスクが手元あるわけでない状況となる。今の所、伊奈病院の川口さん以外の2人に関しては不明という状況。確実に3名の方が協力しながら動いていくという事になっているようなので、早い段階で認定スクールトレーナーの方も研修を受けた際には事業計画や活動計画を提出してもらい確認をした方がよい。今は委員会になっているので今回の話題に横断的に動いており、大隈委員長も不安を抱えているので三役でフォローをお願いしたい。

南本：そこはバックアップ体制を進めていければと思う。

●総会で頂いた意見について

【質問1】

会員数増加、組織率の向上のため、具体的な手段・目的を教えてください。

田口：会員数は減少傾向である。特に新入会員が減ってきている現状。コロナもあったと思うが、回復されていない現状。組織率を向上させるためにはどうしたらよいか。意見を頂ければと思います。昔は風潮などで介入していた現状があったと思うが最近はそれもどうなのかと思う。

赤坂：教育部でも責任を感じている。来年度からは養成校の最終学年時の方に対して11月ぐらいに集まって国家試験の予想問題のイベントと同時に埼玉県士会でどのような事を行っているか知ってもらう場所を企画したいと考えている。就職する前に理学療法士協会とのつながりを作っていきたいと考えている。

田口：埼玉県の全13の養成校の最終学年を集めて11月に行うという認識で間違いないか。

赤坂：間違いない。

渡邊賢：20代の仕事に対する価値観や理学療法士に対する思いここ最近だと10年ぐらいPTをやっている業界へ行こうと考える人もいる。昔と違って一生続けていく形でなくなっている。現在働いている5年未満の方に対して意見を集める時の聞き方なり、質問項目も違う視点で検討する必要があると思う。埼玉県士会において新卒からの新規入会が少ないのか途中で退会していくのか。一概

に20代・30代でくくると詳細がわからないのではないか。5歳違うだけで動向も違ってくると思う。どの辺をターゲットにしていくのか聞きたい。

田口：アプローチに関しては新規入会・途中退会・退会した方へのアプローチを考えている。それぞれ違うアプローチになってくると思う。その人達にどの様なアプローチが望ましいのか意見が聞かれ場と思っている。

渡邊賢：学生の方が追いやすいし、人数的なボリュームが多いと思う。そのため、卒後すぐに入会できるシーンを作るのが良いと思う。

田口：13の養成校に協力を要請しながら進めないといけないと思う。先日問い合わせメールがあった。初入職した先で理学療法士協会は必要性がないと教えられた。7年間PT協会未加入だった。しかし、転職後に必要性を感じ加入しましたが、全講義未参加のまま。PTとしては14年目になりますが、今後どのような手順で講義を進めて良いのかわからない。との問い合わせがありました。この問い合わせにもあるように入職した先で介入を進められない場合がある事も1つの問題だと思う。上記の事等も含めて意見を聞ければと思う。

馬崎：2年目～4年目に退会する方が多いとの事。入職して入会する方は同調圧力で入会する方が2年目以降で年会費を含めて辞めていくケースが多いと思っている入職した人達の底上げは養成校の方々、先生方に訴えていかないといけないと思う。入職した先の先輩が辞めてしまい、後輩が辞めるというケースが多い。先輩が辞めてしまっただけでは意味がないと思う。2年目～4年目に対しての小規模での集まりを作る。また各病院の所属長に対してのアプローチをしていく中で病院全体の空気づくりが必要になると考える。今も行っていると思うが、若手に対しては少数規模で仲間づくり的な雰囲気で作っていくのも良いかと考える。

田口：養成校から協会に何かお願いをするとの事でしょうか。

馬崎：入職したばかりの人は養成校の先生の意見は強いと思っている。養成校の先生が県士会の活動に対して意味があるものだという事や処遇について訴えかけていく必要があると訴えかけを県士会からお願いできればと思う。

渡邊賢：若いうちは安易に辞めてしまっただけでキャリアを積んでいくにつれて必要と思った時に今更聞けない・分からないゾーンがあると思う。理学療法白書をみると日本で一番多いのは1人職場になってくる。ボリュームゾーンもやりながら環境因子でできない所の方に対しての入会支援があってもいいと思う。

田口：埼玉県の作業量士会のHPでは入会の仕方を記載している。

菊地：中途入会者と役職者が入らなくていいよという環境を防ぐのが良いと思う。最近患者様から認定取得者にリハビリをしてもらいたいと要望があった。上の人が言いすぎるとパワハラになってしまう。極端であるが、一般市民の方に認定等の事を知ってもらった上でそこから言ってもらうのも良いかと思う。

田口：アプローチの方向性が一般の人に対してやるとの事です。一般の方から言って頂く風潮になればとの事です。

渡邊雅：若手向けに交流会については行なっているが、集まってもらえない状況。一番の問題は集客できない。電話連絡してもドタキャンがある状況。

田口：集まらないのは聞いていたので今後どうしていくかですね。

阿久澤：理学療法士協会のメリットが分かりにくい。雇用が変わらないからだと思う。菊地先生が言っていた事が理想的である。国家資格的にも研鑽していかないといけないと定められている。しかし実際に雇用が変わらない状況。協会としては役割を打ち出していないといけない。理学療法士協会が実績を認めているのをアピールしていく必要がある。

田口：協会の活動・県士会の活動ともにやっていかないといけないですね。

馬崎：県士会で少人数規模でやっている事は重々承知。病院と病院の小さい関係をつくれると良いと思う。小さい世界をつなげていくのが重要になってくると思う。

木村：自分は職域を守るという意味で入っている。そういった意識が若い方にあるのかは不明でありそこは聞いていきたいと思う。ブロックとエリアよりも小さい単位で行うのは良いと思う。県士会でやってもらうというよりは自分たちで作上げるものだというマインドにならないといけないと思う。

田口：そのマインドをどのように作っていくかが重要ですね。

米澤：メリットを明確にアピールしていないといけない。理事全員で同じ返答が言えないといけない。登録・認定に関しては証というのはわかるが、実績になるメリットが欲しい。会員になる事で無料の勉強会に参加ができる等。ブロック理事でも上がっているが、若い人に主催をさせて若い人同士のつながりをつくる。ブロックが主催でなくサポートに回る形が望ましい。SNSでのつながりを作っていく必要がある。

田口：無料の研修会についてありましたが、職場が研修会費を補填しているので無料を押すのも難しい。なぜ我々が所属しているのかメリットを出し合うのは必要だと思う。企業等は若手の会もあるため、今後県士会でも検討が必要か。

【質問2】

2023年度の予算が全体としてスリムであるが、事情数は前年度を踏襲している。今後の有効性の評価、整理を教えてほしい。

南本：協会のデータで2年目～4年目以降に退会をする方が多いです。委員会を設置しながら20～30代の意見を集約する必要があると考えている。質問1・質問2に対して皆様でディスカッションできればと思います。質問2に関しては、前年度でお金の部分で集約する事が出来た。今年度からはプラスマイナスゼロの会計が望ましいと思う。県士会の活動においてプラス要素で考える事が多かったが、段々と業務が大変になってきている問題がある。県士会の活動にあたりスリム化も必要になってくるのではないかと考えている。

田口：例年踏襲しているが効果等も振り返って頂ければと思う。ご意見頂ければと思う。

渡邊賢：会員数の減少が予算に関係してくると思う。その時にどこに重点を置くのか。今は職能領域が増える事で広がっている現状ではあるが、今後は絞っていく必要もあるか。

田口：絞る事領域で広げるでは両極かと思いますが。また絞り方が重要ですね。

渡邊賢：絞る場合は埼玉県にフォーカスをあてる必要があると思う。

阿久澤：県士会の会員が求めているものとしては登録理学療法士の更新がしやすくする事だと思う。今は他部局の研修内容がかぶってしまっている事が多い気がする。ママさんたちはポイントだけ取

りたいと思っている人も多い現状。ポイントが被らない事は事業整理の時に意識をした方が良いと思う。

田口：ポイントの効率化ですね

米澤：ポイントの効率は良いと思う。1日学会に参加すればポイントはすぐたまる。半日や一日の研修とか部局同士で協力してやるのは良いと思う。効率の良いポイントと取り方を考えるのは良いと思う。

田口：大学で言う集中研修ですかね。

阿久澤：e-ラーニング形式で安く県士会でもポイントが取れるのも良いと思う。しかし、導入にあたり、金額がかかってしまうデメリットもあるが。スポーツ推進部は活動量が増えているが、基本的にボランティアになっている。しかし、支出が増えている現状。今後は派遣費をもらえると良いと思うが。公益社団法人としては難しいか。派遣費が出ない場合はアピールする場としてとらえるしかないか。

田口：e-ラーニングは協会でも行っている。他の研修会もe-ラーニングみたいにできれば良いと思う。

杉本：専門性委員会では、学校の立ち位置が不明慮。そこを大隈委員長が困っている状況。

田口：委員会の役割を整理する必要があるか。

兵頭：有効性の評価も大切だと感じている。学術局の場合には踏襲されていた事業を行っている。今まで行っていた事業に目的があって行っていたと思うが、目的を達成できているのかの評価を行えていなかった気がする。今後は目的が達成できているのか確認が必要だと思った。

田口：分析方法についてはなにか良い案あればと思います。

平野：ブロックとしてはエリアに予算をスリム化するようにお伝えしている。ブロックに関してはスリム化する事で会員の減少も懸念されるためなかなか減らせない現状。

高野：学術大会ではないがブロック集中研修みたいな感じで行くとポイントも取れてその後若い人との交流もできるかと考えた。

櫻場：ブロックで学会できたらと思っています。スポーツに関しては将来性を考えると普通の業務で行けるのが良いかと思った。ボランティアでやっている場合は高野連とかは賛助会員になって頂くなど。

南本：様々意見ありがとうございます。議事録でまとめて検討していく。今年度中に煮詰めて会員の人達には発信できればと思います。総括を矢野先生・清宮先生お願いします。

矢野：お疲れ様です。委員会等で色々と検討して頂く問題かと思います。スリム化については他部署についてというのは難しいと思うので自分の部署から始めると良いと思う。

清宮：事業のスリム化は必要だと思う。今年度始まったばかりなので今年度中に解決していきましょう。

南本：まずは自己分析の所から始めるのが一つの作業になるかと思います。頂いた意見をまとめて皆様方に発信できればと思います。

以上をもって議案の審議等を終了したので、20 時 40 分、議長は閉会を宣し、解散した。
この議事録が正確であることを証するため、出席した代表理事及び監事は記名押印する。

会長 _____ 印

監事 _____ 印

監事 _____ 印